

平成 27 年度

第 41 回 静岡県工芸美術展

— ふじのくに芸術祭協賛事業 —

(財) 静岡県文化財団 ふじのくに文化芸術振興 補助金事業

主 催 静岡県工芸家協会

共 催 静岡県文化協会

後 援 静岡県教育委員会、中日新聞東海本社、テレビ静岡、
毎日新聞静岡支局、読売新聞静岡支局、
朝日新聞静岡総局、静岡新聞社・静岡放送、
静岡朝日テレビ、静岡第一テレビ (順不同)

会 期 平成 27 年 12 月 1 日 (火) ~ 12 月 6 日 (日)
午前 10 時 ~ 午後 5 時 (最終日は午後 4 時終了)

会 場 静岡県立美術館 県民ギャラリー A・B

静岡県工芸家協会は、1965 年に創立して本年度で 51 年目を迎えます。本会は県内工芸家の連絡、相互の親睦と研鑽を目的とし、合わせて関係諸文化団体との交流を図り、県内の文化の向上に寄与することを目的とした団体で、現在、会員 105 名、準会員 64 名で組織されています。1975 年「第 1 回静岡県工芸美術展」として一般公募が始まり本年度は、第 41 回展になります。

静岡県工芸家協会会員の作品と、準会員及び一般から募集した 125 点の中から優秀な作品 117 点を展示しております。

尚、顧問、参与、会長副会長は賞の対象外で、会員賞は未発表作品が対象です。

皆様にご鑑賞とご意見を賜りますようお願い申し上げます。

審査員講評

審査員 伯耆正一先生

陶芸作家 (社)日展会員

京都市在住

審査員 川口清三先生

木工作家 (公社)日本工芸会 正会員

碧南市在住

総評

会員と準会員・一般のレベル差が際っている。一般では受賞作の中にユニークな作品がこの展覧会に新しい息吹を与えてくれている。会員作品はグレードが高く甲乙付けがたい作品ばかりです。工芸美術は個々の自由な発想で創作し、それに合わせた技術が必要である。今後の制作に期待しています。(伯耆)

静岡県知事賞〈その他〉青と緑の二人 伊藤利枝
斬新な造形で色の選択も見事であり、細部の細かい仕事全てが作品に生きている。
(川口)

静岡県教育委員会教育長賞〈陶芸〉伊羅保四面花器 山本純夫
四方体の二つの形体を合わせた造形に伊羅保釉が自然にかかっている。豊かな造形に新鮮さを与えてくれる秀作である。(伯耆)

静岡県工芸家協会会長賞〈織〉草木染め紬織着物 桜の宴 山口照美
ピンクを基調に、やわらかな色合いでまとめられており「桜の宴」と言う題名が示す通り春のおだやかな気配に満ちている。(川口)

静岡県文化協会会長賞〈陶芸〉多面体 小笠原克己
多面体の形体に印花又は釘彫りで文様をつけて土器風な焼き上げで仕上げている。形体と装飾がマッチした作品である。(伯耆)

静岡新聞社賞〈染〉茶畑の風 桂田貴子
静岡名産のお茶をモチーフに、お茶の葉をディフォルメし、間に花を入れている。茶畑を思いおこさせる作品である。(伯耆)

中日新聞東海本社賞〈漆〉小箱 眞田桂子
鎌倉彫の小箱であるが、手に持った時の大きさと形がほどよく、ぬくもりが感じられる。
(川口)

毎日新聞社賞〈竹〉花籠 佐藤方男
竹の特性を良く生かし、美しいシルエットの中にシャープさが感じられる。(川口)

読売新聞社賞〈染〉夕映(せきえい) 渡辺靖子
魚をモチーフに現代的な構図と色合いでまとめられている。(川口)

朝日新聞社賞〈陶芸〉焼締流線紋大壺 井口淳
ロクロ成形の豪快な作りである。登り窯で焚いてあるのか、灰かぶりがダイナミックさをより増している作品である。(伯耆)

最優秀会員賞〈陶芸〉跡憶 小割哲也
板づくりで形体を構築し、一部の表面を荒らしている。織部釉のピュアな色がより造形を高めている作品である。(伯耆)

静岡第一テレビ賞〈織〉草木染首里花織 城間早苗
大変珍しい花織りの作品である。ブルーのストライプをメインに落ちついた中に気品のあるリズムを刻んでいる作品である。(伯耆)

テレビ静岡賞〈陶芸〉大地からの伝言 三ツ石幸一
プリミティブな造形をロクロで成形し、自然釉で仕上げている。ユーモアのある作品である。(伯耆)

静岡放送賞〈陶芸〉染付鉢翡翠(かわせみ) 小枝真人
卓越したロクロ技術に、二羽の翡翠を愛らしく表現している。磁器のシャープさと翡翠のむつまじい姿が作品になごやかさを与えている。(伯耆)

静岡朝日テレビ賞〈木〉榊神代十角象嵌箱 堀田康夫
雅で味のある、神代榊の十角箱に現代的な象嵌が施してあり、細部まで神経が行き届いている。(川口)